

掛田自治協議会からのお知らせ 掛田の広場



第25号
2021年3月25日
掛田自治協議会
＜発行責任者＞
会長 大友靖子

徳が森花だより

河津桜(カワヅザクラ)

樹高は垂高木、樹形は傘状。一重咲きで4cmから5cmの大輪の花を咲かせ、花弁の色は紫紅。オオシマザクラとカンヒザクラの雑種にさらにカンヒザクラが交雑した種で、オオシマザクラ由来の大輪の花と、カンヒザクラ由来の紫紅の花弁の色で早咲きが大きな特徴です。

徳が森では、今年、3月7日から咲き始めました。
これから、サクラ50種150本が5月連休まで次々に咲いて行きます。
レンギョウ、水仙と一緒に里山をお楽しみください。お待ちしております。
(徳が森環境整備プロジェクトチーム 森久保 律子)



満開を迎える河津桜

1日も早いコロナの完全収束を願ひ、早く元通りの活気を取り戻したいものです。

令和2年 霊山中央交流館の利用状況

各団体の皆さん、町内の皆さんには霊山中央交流館を利用して頂きありがとうございます。
1月・2月は、前年度を上回って利用されておりましたが、3月にコロナ感染防止のため、利用制限がなされ、また、4月21日から5月19日まで交流館等が閉鎖されました。そのため、各団体の皆さんの活動も大きく減少しました。

令和2年
霊山中央交流館利用状況

利用月	回数	人数
1	89	1,158
2	124	2,096
3	116	1,410
4	44	398
5	13	100
6	86	826
7	90	966
8	81	779
9	106	1,480
10	128	1,543
11	97	1,046
12	75	658
合計	1,049	12,460

(事務局)

コラム

「未来を描く。」

「三十年後の掛田の未来はどうなっているのか。」「えーっあまりにも遠すぎる。」「では十年後の未来は...」
皆さんは、どのような未来を思い描きますか。三十年前、町は確かに賑わっていました。人々が行き交っていました。バスだって乗客でぎゅうぎゅう。つい最近の事のようにです。
震災から十年。今になって思えばあっという間に時は過ぎ去りました。
2月13日の大きな地震は大地震の余震だったとのこと。地球規模の時間の流れの、なんとゆつたりしている事か。

中央自動車道も全面開通まであと少し。
都市部だつてぐんと近くなつてきます。

ここに住む私達は自然豊かな掛田を愛し、三十年後の未来もせめて現状維持している地域づくりをしていきたいものです。「掛田はいいところ、自然が豊かで人情味があつて心豊かに暮らせるまち、どこかつかしいけれど近代的なまち。安心して子育てできるまち。」と、評判になつて若い家族がたくさん暮らすまち、なつていたらいいですね。



編集後記

令和3年も引き続きコロナ禍での厳しい状況の中で迎えた。東京5輪開催が危ぶまれる中、県内を皮切りに3月25日聖火リレーがJヴィレッジからスタートし7月23日の開会式まで全国約1万人のランナーが走る。
3密を避けるため、街頭での応援を自粛しましょう。
今年の冬は、例年と比べると降雪、雨量が少なく、今後農作物への水不足も心配される。

お問い合わせ先 霊山中央交流館
電話 586-1314 FAX 586-3391
e-mail kakedajichikyougikai@aioros.ocn.ne.jp

掛田中学校校歌

都塵を遠く へだたりて
清き広瀬に かげうつす
館のおろしの 花吹雪
いらかも高き 学舎は
われらが掛中 光あり

作詞 和宇慶良春
作曲 渡辺 樹

「新制 掛田中学校の 草創期と校歌の制定」

昭和12、13年生まれの私達は、真新しい掛田中学校(新校舎)最初の一年生として入学しました。【136名】(掛田小卒106名、下小国・山戸田地区から30名)
ここで新制中学発足時の様子について、初代校長齋藤春之介先生からの寄稿文の前半部を紹介いたします。

【昭和22年3月、学制改革により新制中学校が誕生し、掛田中学初代の校長を拝命して赴任したのは、桜も散り青葉の薫り始める4月下旬でありました。校舎は小学校の一部を借用し、生徒は新制度で入学した一年生2組、二年生2組、三年生1組の五学級。職員は少人数ながら新進鋭刺とし、あるいは老練円熟した方達八名でありました。
最も苦慮したのは校舎建築問題で、それが実を結んで昭和25年3月新校舎落成を見た時は、感無量なるものであります。】
建設工事の胴突作業には、小学校六年生の



下川原に新校舎が完成(全景) 写真提供 下屋敷 大橋良光



昭和25年3月 新校舎を間近で見る

私達や中学生の先輩たちも全員参加しました。昭和25年3月卒の第三回卒業生は「校舎完成後1週間ほど校舎で勉強し、卒業式を新校舎でやってもらった。」と、思い出を語ってくれました。
掛田中学校第二代会長は和宇慶良春先生【国文学・漢文】です。校歌の作詞をされました。
教頭先生は渡辺樹先生【図工・音楽】校歌の作曲をされました。
昭和27年、私達が中学三年生になったある日、教頭先生から数人に「放課後音楽室に来るように。」と声がかかり、先生が作曲中の校

歌の試唱に立ち会いました。その後、披露の会が開かれるいろいろな学校行事で斉唱する事になったのです。(正式な制定の日が記録に残っていない事から、これを機会に昭和27年制定として記録に残してもらいたいと思います。)
1968年(昭和43年)、掛田中・霊山中(大石)・石戸中が統合して現在の霊山中学校となりました。そして、昭和27年制定された掛田中学校の校歌は「われらが掛中光あり」が、「われらが霊中光あり」となり、今に歌い継がれているのです。(佐藤隆昭)



一時停止して安全確認をお願いします。

霊山中央交流館入口交差点で 交通事故多発

中央交流館入口(写真)で左折と右折車との接触事故が後をたちません。亀岡神社、掛田中央内科方面から中央交流館入口交差点では、左側に住宅があり、直進し、交流館に入る車が見えませんが、交通安全協会、市役所霊山支所で事故防止の横断幕や「止まれ 左右確認」の看板を設置して注意喚起に努めておりますが、この交差点での接触事故がたびたび起きています。今回、「止まれ」の標識を新たに設置しました。

見通しの悪い交差点では徐行(すぐ止まれる)や一時停止が必要です。裏道での交通事故防止のためにも皆さんのご協力をお願いします。

(交通安全協会 掛田分会長 安達文雄)

霊山中央交流館入口交差点で 交通事故多発

梅もさく華やかな 「ミニ門松」を作りました。

掛田自治協議会の「ミニ門松づくり」が、12月19日霊山児童館を会場に行われました。泉原の岡崎孝雄さんの指導で、門松のいわれを学びながら親子で門松づくりを行いました。約1時間後には、高さ50センチの南天の赤が映えるミニ門松を作り上げました。午前と午後の2回合わせて22組の親子が参加しました。

このミニ門松は縁起物の松竹梅を飾り、梅はハウス内で育て正月に咲くよう工夫されています。皆さん正月に飾って楽しみました。

(社会教育部会長 八島豊吉)



みんなで作ったミニ門松

恐怖の激震。墓石に被害

先日の福島県沖地震は、様々な爪痕を残しております。10年前の大震災でも多くの墓石が倒壊しました。心配で翌朝見に行ってみると、高いところで古い墓石は倒れ回転していました。新しい石碑は耐震構造になっており健在です。

これからは、すべてに耐震性が必要と実感しました。何時起きかわからない災害、常に防災の心が必要で防災対策が必要です。

掛田自治協議会では、防災部会を立ち上げ、各地域に防災組織づくりを進めております。この高齢化社会に地域での話し合い・助け合いが早急に望まれます。

(総務企画部会長 佐藤吉彦)

大雨で土砂流失(田沢)

2月15日に、台風並みの強風、大雨で田沢 館線で道路に土砂が流失し、一時通行止めとなりました。

2月13日の地震により、地盤が緩んだ処に大雨で大量の雨水が水路から溢れ、災害が起きたと予想されませんが、幸い住宅等への被害はありませんでした。

日頃から地域の皆さんと防災について考え、行動して行きましょう。

(環境防災部会長 森久保 操)

大雨で土砂流失(田沢)



道路に流失した土砂(田沢 館線)



地震で倒れた墓石

福島県沖でM7.1の地震発生

去る2月13日(土)午後11時8分頃、伊達市はM6弱の地震があり、避難所が開設され、停電のため大石、泉原から数名の方が避難されました。

翌朝、停電が復旧し、避難所は閉鎖となりました。

今回の地震で、被害にあわれた皆様にお見舞いを申し上げます。

霊山中央交流館では、ロビー上の瓦が30枚ほど動き数枚が落下し、翌日業者の方に見て頂きましたが古い瓦のため、予備がなくしばらくはブルーシートで覆って対応しています。

現在のところ雨漏りはありません。瓦が入り次第修理を致します。

(事務局)



瓦が落ちた屋根に応急措置

コロナ禍の中の民生委員活動

民生委員制度ができて100年になります。私たち民生委員は、これからの活動を具体的にすすめるため、地域の実情を踏まえた「霊山町活動強化方策」を作成しています。

掛田地区には6人の民生・児童委員と2人の主任児童委員がいます。民生・児童委員は地域の高齢者と子どもたちの見守りをしていて、ひとり暮らしや高齢者のふたり暮らし世帯の家庭訪問や、小学校と情報交換し子どもたちの安全を見守っています。

昨年からのコロナ禍の中、高齢者世帯の訪問も難しくなっています。電話などで安否確認をしています。

災害時等は何と言っても近所の皆さんの力が必要です。日頃から声を掛け、お互いの思いやりで住みやすい地域にいたしましょう。私たちは、皆さんの悩みや困りごとを関係機関につなぐ役目をしています。

どうぞ、お気軽に声を掛けてください。

(民生・児童委員 寺島すみ子)



どうぞ、お気軽に声を掛けてください。

(民生・児童委員 寺島すみ子)

「霊山生涯学習を楽しむ会」

今年度の「霊山生涯学習を楽しむ会」は、コロナ禍の中でもあり、三密を避けながら回数を減らしての学習となりました。

地元学「霊山学」第2回学習会は、2月17日に霊山中央交流館で「霊山地域に伝わる養蚕関係の古文書を読む」のテーマで、講師に保原歴史文化資料館の学芸員阿部俊夫様をお迎えしました。



久しぶりの学習会

福島県歴史資料館所蔵の養蚕関係の古文書から、「老母と倅」・「水害と村人」・「年貢皆済と養蚕」を読み解きました。いつの時代でも子どもの悪さに母は難儀し、旦那である三乗院に駆け込んだことや、年貢米が納められず金子を借用し、田植えや養蚕などの農作業で返済したことなど、当時の地元の様子が読み取れ、興味深い地元学となりました。

(会長 佐藤 隆昭)

文学講座

福島大学名誉教授の高野保夫様を講師に迎え、コロナ感染予防をしながら6月・9月・11月の3回の講座を開催しました。「宮沢賢治の詩の世界にふれる」をテーマに、毎回趣向を凝らした講師の魅力ある講義に、受講生はどつどつと賢治の世界に引き込まれていきました。

その当時、賢治はすでに自然災害や人災にも警鐘を鳴らしていたのです。

賢治の作品は、今のコロナ禍の中で大切なものは何かを気付かせてくれ、意義のある「講座」となりました。私たちも作品の中から、希望を見出す努力をしたものです。

(受講生 歌川多賀子)

キラリ輝く女性講座

12月8日に開催されました。始めに霊山中央交流館で、「愛燦燦」や「夜空のトランペット」など千葉一則さんのトランプット演奏を楽しみました。

今回の学習は町内の企業訪問です。地元にあっても行ったことのない念願のパーシモンカントリークラブで、渡辺副支配人からコースとクラブハウスの案内を受け、見晴らしの良いレストランでランチをいただきました。また、りょうげん道の駅では斎藤専務から、施設の概要や施設利用状況などを説明していただき、現状を知る充実した講座となりました。

(受講生 安田 愛子)

(受講生 安田 愛子)